

令和6年
2024
麦曆

JAグループ三重・三重県米麦協会・三重県産麦生産改善技術対策会議

健全な生育を確保しましょう!

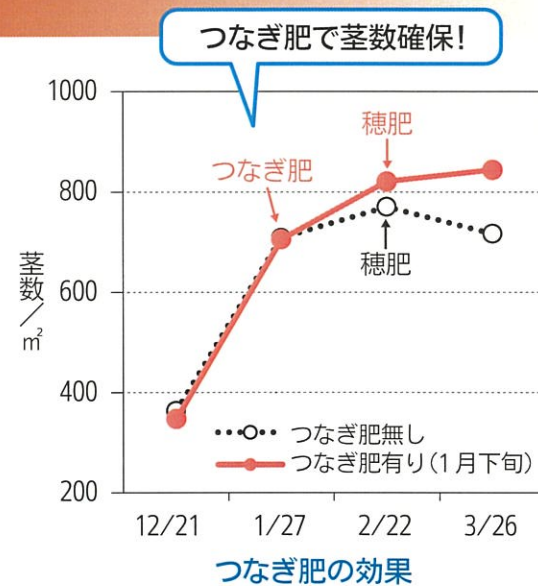
つなぎ肥 麦踏み(1月)

積極的な追肥で増収

■生育途中に肥効が低下すると穂数が減り収量に大きく影響します。葉色を低下させないよう積極的な追肥が重要です。

つなぎ肥

■播種後年内に雨が多い場合や早播き時の肥切れ防止のため、3～4葉期に窒素成分で2kg/10a程度施用して肥効を維持します。肥効調節型肥料を利用した場合も同様としましょう。



1月	上旬	中旬	下旬
栽培管理			つなぎ肥
麦の生育	麦踏み	雑草防除	有効分けつ

麦踏み(1月)

■3葉期から節間伸長開始期までに実施します。12月～2月、15日～20日間隔、2～3回実施

1月の麦踏みについて

- 下位節から分けつを促し、茎数を増加させます。
- 有効茎(将来の穂)を増やし、根をしっかりと育てます。
- 乾燥や寒さによる株の浮き上がりを防止します。

雑草防除(生育期)

RAC コード ※	薬剤名	麦 種	使用時期	適用雑草名等	使用量(10aあたり)		使用回数
					薬剤量 (ml)	水量 (ℓ)	
H:6	バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	小麦 麦類(小麦を除く)	生育期(収穫45日前まで) 生育期(収穫90日前まで)	一年生雑草(イネ科を除く)	100～200	70～100	1回 1回(ペンタゾン)
H:2	ハーモニー DF	小麦	節間伸長開始期～穂ばらみ期 但し、収穫45日前まで	一年生広葉雑草	3～10g	50～100	1回 1回(チフェンスルフロンメチル)
			播種後～節間伸長前	スズメノテッポウ：一年生広葉雑草	5～10g		
		大麦	麦1葉期～節間伸長前	カズノコグサ	10g		
			播種後～節間伸長前	スズメノテッポウ：一年生広葉雑草	5～10g		
			麦1葉期～節間伸長前	カズノコグサ	10g		

※作用機構が同じグループの農薬を連用すると、病害虫の抵抗性(薬剤耐性)が発達し、農薬の効果が低下する恐れがあります。RACコードを確認し、同じ作用機構を持つ農薬の連用は避けましょう。

生産履歴を記帳しましょう(カレンダーにメモして、生産履歴管理記録に転記しましょう)

実施年月日	作業内容	使用した資材名・数量(種子、肥料、農薬)	実施面積	特記事項

※カレンダーに記載されている農薬は登録内容が変更になることがありますので、最新の登録内容を確認の上、使用してください。基準を守り、特に飛散(ドリフト)に十分注意しましょう。

春に備えて健全な麦の姿に！

穂肥(1回目) 麦踏み(2月)



積極的な追肥で増収

- 生育途中に肥効が低下すると穂数が減り収量に大きく影響します。
葉色を低下させないよう積極的な追肥が重要です。

穂肥(1回目)

- 幼穂形成期(6葉期頃)に窒素成分で2～3kg/10a程度施用し、穂数、粒数を確保します。
この時期の穂肥は将来的に稈長の伸びに影響しますので生育量が大きい場合は控えましょう。

麦踏み(2月)

- 3葉期から節間伸長開始期までに実施します。
12月～2月、15日～20日間隔、2～3回実施

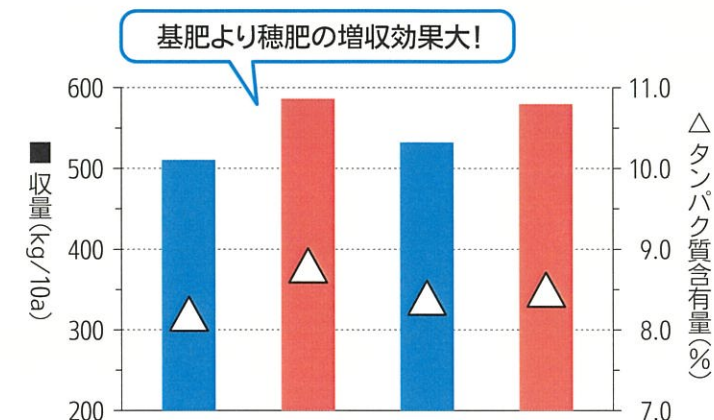
2月の麦踏みについて

- 伸びすぎを抑えて、過繁茂を防ぎます。
- しっかりした根張りを確保し、春に備えます。
- 無効茎を淘汰し、強い有効茎を確保します。

生産履歴を記帳しましょう(カレンダーにメモして、生産履歴管理記録に転記しましょう)

実施年月日	作業内容	使用した資材名・数量(種子、肥料、農薬)	実施面積	特記事項

穂肥の増収効果



穂肥窒素	止葉抽出始期	2kg/10a	3kg/10a	2kg/10a	3kg/10a
	6葉期	+	+	+	+
基肥窒素		2kg/10a	3kg/10a	2kg/10a	3kg/10a
		7kg/10a	9kg/10a		

2月	上旬	中旬	下旬
栽培管理	麦踏み		
	穂肥(1回目)		
麦の生育	有効分げつ		有効茎数決定

的確な追肥と異種穀粒の混入防止!

穂肥(2回目)

排水対策

そば混入防止

的確な穂肥(2回目)で増収、品質向上!(3月)

- 3月下旬(止葉抽出期)に施用する2回目の穂肥(窒素成分で2~3kg/10a)が、収量確保のため非常に重要ですが、出穂期以降に窒素の肥効が高まると硝子粒が発生して外観品質の低下や、製品の加工特性に悪影響を及ぼします。このため過剰に施用しないように注意します。
- 追肥量については、それまでの気象経過によって加減します。
多雨の場合にやや多めに、少雨の場合にはやや少なめにしましょう。

排水対策(排水口・排水路の整備)

- ほ場内の明渠、排水口、排水路との連結などを確認しましょう。
- 出穂後の排水不良は、登熟を阻害します。

3月	上旬	中旬	下旬
栽培管理	排水口・排水路の整備 穂肥(2回目)		
麦の生育	茎立ち始め	節間の伸長	

そば混入防止と大麦への小麦混入防止

- そばや小麦は、「アレルギー」を引き起こすアレルゲンとされています。
そのため、そばが混入した麦、小麦が混入した大麦は流通することができません。
- そばを麦ほ場内で、小麦を大麦ほ場内で見つけた場合には必ず抜取りを行って下さい。
- そばなどの一年生広葉雑草には、下記の除草剤の利用を検討下さい。

【使用方法 例】

RAC コード ※	薬剤名	麦 種	使用時期	適用雑草名等	使用量(10aあたり)		使用回数
					薬剤量 (ml)	水量 (ℓ)	上段：本剤 下段：有効成分を含む農薬
H:6	バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	小麦	生育期 但し収穫45日前まで	一年生雑草 (イネ科を除く)	100~200	70~100	1回 1回(ベンタゾン)
		麦類 (小麦を除く)	生育期 但し収穫90日前まで				

※作用機構が同じグループの農薬を連用すると、病害虫の抵抗性(薬剤耐性)が発達し、農薬の効果が低下する恐れがあります。RACコードを確認し、同じ作用機構を持つ農薬の連用は避けましょう。



そばの芽生え(水田ほ場)

生産履歴を記帳しましょう(カレンダーにメモして、生産履歴管理記録に転記しましょう)

実施年月日	作業内容	使用した資材名・数量(種子、肥料、農薬)	実施面積	特記事項

※カレンダーに記載されている農薬は登録内容が変更になることがありますので、最新の登録内容を確認の上、使用してください。基準を守り、特に飛散(ドリフト)に十分注意しましょう。



※カレンダ－に記載されている農薬は登録内容が変更になることがありますので、最新の登録内容を確認の上、使用してください。基準を守り、特に飛散（ドリフト）に十分注意しましょう。

コンバイン等の清掃と整備！

- そばなど他の穀粒や異物の混入は許されません。
- コンバインや乾燥機、グレーダーを入念に清掃しましょう。
- 刈取りに備えて、給油や整備点検を行いましょう。

枯れ熟れの防止

- 高温・好天と降雨の繰り返しは、枯れ熟れを助長します。
- 湿害は枯れ熟れを加速します。
- ほ場内の明渠の排水口・排水路への連結、排水路を整備・清掃し、枯れ熟れを防ぎましょう。

異種穀粒(そばなど)の混入防止！

- そばの発生が認められた場合には、麦収穫前に必ず抜き取りましょう。
- そばを抜き取った後、コンバインで収穫する場合、刈刃を40cm程度に上げて収穫し、そばの混入を防止して下さい。
- そばの混入が疑われる場合には、色彩選別機による調製が必要です。

5月		上旬	中旬	下旬
栽培管理		← 雑草除去・排水路整備・機械整備 →		
麦の生育	大麦	糊熟期	黄熟期	成熟期・収穫期
	小麦	乳熟期	糊熟期	黄熟期・成熟期

生産履歴を記帳しましょう(カレンダーにメモして、生産履歴管理記録に転記しましょう)

実施年月日	作業内容	使用した資材名・数量(種子、肥料、農薬)	実施面積	特記事項

※カレンダーに記載されている農薬は登録内容が変更になることがありますので、最新の登録内容を確認の上、使用してください。基準を守り、特に飛散(ドリフト)に十分注意しましょう。

雑草対策

- ヤエムグラ、カラスノエンドウ、カラスムギ、そば等を抜き取りましょう。
- これらの種子は、調製作業で完全に抜き取ることができません。
- ネズミムギやカラスムギの幼植物は、麦とよく似ることから注意が必要です。
- 近県で問題となっているヤグルマギクが三重県内でも発生しています。
- 早期発見・対策により、他のほ場への蔓延を防ぎましょう。

主な難防除雑草
(左：ネズミムギ、右：カラスムギ)

適期に収穫を！

適期収穫

乾燥・調製

異物の混入防止



適期収穫で雨害を回避、迅速に！

■収穫期の連続した降雨は収量・品質に著しい影響を与えます。

- 麦粒が発芽し始めることにより起こる低アミロ麦はめん等の加工適性に大きな影響を与えます。
- 低アミロ麦は成熟期後、3～4日の降雨で発生が助長されます。こまめな水分測定により、作業計画を立て適期収穫を心がけましょう。
- 刈り遅れはかび毒であるDONやNIVの産生を助長する原因となります。
- 刈り遅れなど品質低下が予想される場合は仕分け管理を行いましょう。

麦の収穫適期は穀粒水分が28%となった時です。測定により、水分の低下を確認してから作業を行いましょう。
梅雨期など、やむを得ず高水分で収穫を行う場合は、穀粒水分35%以下を目安とします。なお、この場合、できるだけ早く乾燥施設に搬入し、50℃程度、毎時乾減率2%程度で乾燥します。
また、エンジンの回転数を下げたり、稲用に変速したりなどして、損傷粒や選別不良の発生を防ぎましょう。

《低アミロ麦とは》

成熟後に降雨をうけ穂発芽が起こると、小麦でんぷんが分解され、粘度が低下します。低アミロになると、二次加工適性が極端に悪くなり、べとつく、ボロボロになる・ばさつくなどの弊害が起きて、加工品の商品価値が落ちてしまいます。このため低アミロ麦は、製粉用途での使用が困難になります。

品種ごとの注意点(収穫時期)

さとのそら

- 穂が湾曲し始めた頃が収穫適期で、成熟期後3～4日頃です

あやひかり

- 白ふ品種で収穫時期が判別しづらいので、水分測定により、刈取り時期を判断します。

ニシノカオリ

- 白ふ品種で収穫時期が判別しづらいので、水分測定により、刈取り時期を判断します。
- 穀粒水分が25%を下回ると穂軸の折れ等が発生し易くなるので注意しましょう。

タマイズミ R

- 穂首の曲がりあまり見られないので、水分測定により、刈取り時期を判断します。
- 穂発芽しやすいので、刈り遅れに十分注意しましょう。

乾燥・調製

- 乾燥・調製施設を利用しましょう。
- 穀粒水分を12.5%以下に乾燥します。
- 必ずライスグレーダーを用い、既定の網目を使用します。

長期保存に備え、乾燥・調製時期が梅雨期で穀粒の水分が戻りやすいことを留意のうえ、戻り水分を考慮した仕上げ乾燥を行ってください。

異物の混入防止！

■収穫時や乾燥・調製時には異物の混入防止を徹底して下さい。

- 茎・葉等の夾雑物や異種穀粒（そばなど）が混入していないか注意して下さい。
- 農作業用品や機械部品の管理にも注意が必要です。

生産履歴を記帳しましょう（カレンダーにメモして、生産履歴管理記録に転記しましょう）

実施年月日	作業内容	使用した資材名・数量（種子、肥料、農薬）	実施面積	特記事項

		5月下旬	6月上旬	6月中旬	6月下旬
栽培管理		← 収穫（大麦・小麦） →			
麦の生育	大麦	成熟期・収穫期			
	小麦	黄熟期・成熟期	収穫期		

次作に向けて準備を適切に！

種子更新 麦わらの有効活用 雑草防除

次の播種に向けて、種子を更新しましょう。

- 毎年必ず種子を更新しましょう。
- 種子更新は、取引業者や消費者への信頼につながります。
- 種子更新は、三重県産麦の生産性向上及び品質改善を図るため、きわめて重要です。
- 種子の自家採種は、品質特性の劣化、混種や変異、あるいは変種が発生する原因となります。品種の優良性及び純粋性を保つため「種子更新」が必要です。

雑草防除
(ネズミムギ対策
の事例)

薬剤名	処理方法(例)	
	雑草茎葉散布① + 全面土壌散布②、③	雑草茎葉散布① + 全面土壌散布②
プリグロックスL	① 播種前(～12日程度)	① 耕起前
ボクサー	② 播種直後	② 2回処理 (出芽前+生育期)
リベレーターフロアブル	③ 播種後(1ヶ月程度)	——

【使用方法 例】

RAC コード ※	薬剤名	麦 種	使用時期	適用雑 草名等	使用量(10aあたり)		使用回数 上段：本剤 下段：有効成分を含む農薬
					薬剤量 (ml)	水量 (ℓ)	
H：22	プリグロックスL	麦類	播種前又は播種後出芽前	一年生雑草	600～1000	100～150	4回 4回(ジクワット・パラコート)
H：15	ボクサー	小麦 (秋播)	播種後～麦2葉期(雑草発生前～発生始期)	一年生雑草	400～500	50～100	2回 2回(プロスルホカルブ)
		大麦(秋播)	播種後～麦2葉期(雑草発生前～発生始期)			70～100	
H：12 H：15	リベレーターフロアブル	小麦・大麦 (秋播)	播種後～麦3葉期(雑草発生前～イネ科 雑草1葉期)	一年生雑草	60～80	100	1回 1回(ジフルフェニカン) 1回(フルフェナセット)

※作用機構が同じグループの農薬を連用すると、病害虫の抵抗性(薬剤耐性)が発達し、農薬の効果が低下する恐れがあります。RACコードを確認し、同じ作用機構を持つ農薬の連用は避けましょう。

生産履歴を記帳しましょう(カレンダーにメモして、生産履歴管理記録に転記しましょう)

実施年月日	作業内容	使用した資材名・数量(種子、肥料、農薬)	実施面積	特記事項

※カレンダーに記載されている農薬は登録内容が変更になることがありますので、最新の登録内容を確認の上、使用してください。基準を守り、特に飛散(ドリフト)に十分注意しましょう。

雑草防除

- 雑草防除や病害虫防除の観点からも長期の畑連作を避け、水田に戻して、田畑輪換を行いましょう。
- 夏期に1か月以上、ほ場を常時湛水状態にすることでカラスムギやネズミムギの発生を抑制できます。ネズミムギの場合は、3か月以上の湛水状態が必要です。

湛 水 処 理

- カラスムギ：7月下旬から1か月以上
- ネズミムギ：3か月以上

ボトムプラウによる埋没

- カラスムギ：25 cm以上
- 種子が地表近くに回らないように、反転して埋没させます。(播種時の耕深に注意します。)

不 耕 起

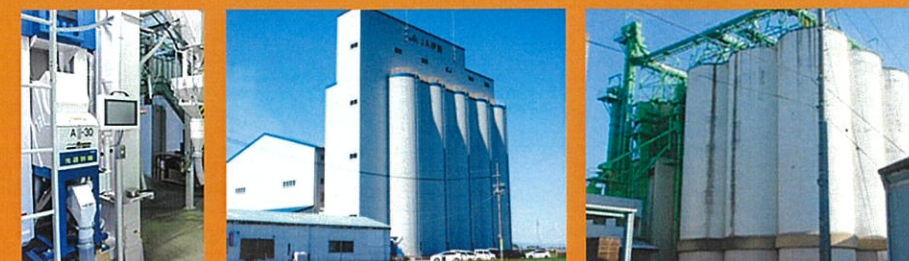
- 麦収穫後、夏作を栽培しない場合には、播種直前まで耕起せず、雑草が発生した場合、刈り払うか農耕地用の非選択性除草剤を散布します。

ほ場周縁部の除草・抜き取り

- ほ場への難防除雑草の侵入を防ぐため、畦畔を定期的に除草しましょう。

麦わらの有効活用

- 麦わらは貴重な有機物資源です。水田へのすき込み、畜舎の敷料や樹園地の敷きわらなどに利用しましょう。



実需者が求める加工品質の確保が重要です。

■日本めん用小麦

評価項目	基準値	許容値
たんぱく	9.7%以上～11.3%以下	8.5%以上～12.5%以下 ※「あやひかり」は、 8.0%以上～13.0%以下
灰分	1.60%以下	1.65%以下
容積重	840g/ℓ以上	——
フォーリングナンバー	300以上	200以上

■パン及び中華めん用小麦

評価項目	基準値	許容値
たんぱく	11.5%以上～14.0%以下	10.0%以上～15.5%以下
灰分	1.75%以下	1.80%以下
容積重	833g/ℓ以上	——
フォーリングナンバー	300以上	200以上

生産履歴を記帳しましょう（カレンダーにメモして、生産履歴管理記録に転記しましょう）

実施年月日	作業内容	使用した資材名・数量（種子、肥料、農薬）	実施面積	特記事項

※カレンダーに記載されている農薬は登録内容が変更になることがありますので、最新の登録内容を確認の上、使用してください。基準を守り、特に飛散（ドリフト）に十分注意しましょう。



小麦の種類

小麦は、含まれているタンパク質の質と量などによっていくつかの種類があります。

硬質小麦

タンパク質が多く、粘弾性（粘りと弾力性）に富む

中間質小麦

タンパク質の含有量が、中程度

軟質小麦

タンパク質の含有量が、少ない

強力粉

パンや中華麺、餃子の皮などに



中力粉

うどん、そうめんなど、日本麺に



薄力粉

ケーキ、お菓子、てんぷら用に



ニシノカオリ

高タンパクの硬質小麦で、強力粉として、パン、中華麺、焼そば、菓子用などに適しています。



さとのそら

通常アミロース含量で、日本麺用の軟質小麦で、加工適性に優れています。



タマイズミR

黄味をおびた明るい色相の硬質小麦で、中強力粉として、中華麺、焼そば、菓子用に適しています。

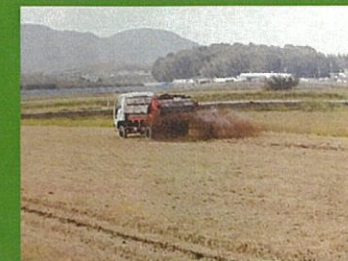


あやひかり

モチモチとした食感の軟質小麦で、中薄力粉として、うどん、菓子用に適しています。

麦播きに向けた計画を!

ほ場準備 チゼル深耕



麦は冬の有利な作物です

- 農業機械を有効利用できます。
- 団地化により効率化が図れます。

遊休農地にも麦を作付けしましょう

- 機械作業で元の耕地に復元しましょう。
- 雑草害など、近隣への悪影響が避けられます。

早めにほ場復元に取り組みましょう

- 大きくヤブになっている雑草は、刈り取りましょう。
- 繁茂している雑草は、早めに除草剤で枯らしましょう。
(ラウンドアップマックスロード、タッチダウンiQ、バスタ液剤など)

適期播種できるように早めにほ場を用意しましょう

- 麦栽培は水稲との輪作により取り組みましょう。
- ほ場が湛水される水稲との輪作を行うことで、地力維持や雑草害の軽減を図りましょう。
- 畑作物である麦は排水対策の徹底が必要です。
- 団地化することで周囲からの水の侵入を防ぎましょう。

そば跡には小麦・大麦の栽培はできません!

- そばが混入した麦は民間流通麦として買入できません。

チゼルプラウによる深耕体系(三重県農業研究所)



チゼルプラウ



縦軸駆動ハロー



小明渠浅耕播種

ほ場準備作業のポイント(9月~10月)

- ① 麦作ほ場は可能な限り団地化、連担化しましょう。
- ② 稲収穫後、できるだけ早期に麦作ほ場を計画し、ほ場内の明渠の設置、浅耕を行い、麦作の準備をしましょう。
- ③ 3年以上の連作を避け、排水性の良い土壌を中心にほ場計画を立てましょう。
- ④ 中山間地域の排水不良地帯では、2年間連続で畑作物を作付けると乾田化し、2年目の収量性が高まります。
- ⑤ 稲株を倒す程度の浅耕により、稲わらの流亡を防ぎ、土壌を乾燥させ播種精度を高めます。
- ⑥ 雑草の発生が多い場合、茎葉処理除草剤を散布しましょう。

水稲収穫後の耕起は、稲株を倒す程度の浅耕にしましょう(5~7cm)。

- 麦作付けほ場は、早めに決め、ほ場内の排水を行うため明渠を設置しましょう。
- そば跡には、小麦、大麦の栽培はできません!

チゼル深耕体系の特徴及び作業手順

- ロータリー耕よりも深耕ができ、土塊が大きいので降雨後の乾燥が早く麦の適期播種がしやすく、根域の拡大にもつながります。
- 縦軸駆動ハローで碎土・鎮圧をすることで、下層の稲株を引き上げてくることが少なく、またスパイラルローラで地面を締固めるので播種時に作業機の沈み込みが少なくなります。
- 作業手順
 - ① 水稲収穫後、できる限り早い時期に額縁明渠を施工、排水口と連結する。
 - ② サブソイラ等による心土破碎が実施できる場合には額縁明渠からつなげるように施工する。
 - ③ チゼルプラウを用い、耕深20cm程度で粗耕起する。
 - ④ 十分に土壌が乾燥した後、縦軸駆動ハローで丁寧に碎土する。(極力、播種直前の作業が良い)
 - ⑤ 播種適期となった時点で小明渠浅耕播種機を用いて畦立播種する。

各作業のポイントを
カレンダー12月に
紹介しています
(技術メモ)

生産履歴を記帳しましょう(カレンダーにメモして、生産履歴管理記録に転記しましょう)

実施年月日	作業内容	使用した資材名・数量(種子、肥料、農薬)	実施面積	特記事項

※カレンダーに記載されている農薬は登録内容が変更になることがありますので、最新の登録内容を確認の上、使用してください。基準を守り、特に飛散(ドリフト)に十分注意しましょう。

ほ場の準備を念入りに！

土づくり ほ場準備(排水対策) 雑草防除(耕起前・播種前)



麦作の基本は土づくりから

- 石灰資材の施用により酸度を矯正します。
- 麦に好適な土壌 pH 値は 6.0～6.5 です。

石灰資材の施用の目安は…

pH5.5 以上 苦土石灰 100kg/10a
pH5.5 未満 苦土石灰 200kg/10a

排水対策

■ 適期に播種できるように、あらかじめ周囲溝や弾丸暗渠等の設置を行いましょう。

■ 明渠等を設置し排水性を向上させましょう。

- 水稻収穫後早めに、ほ場の周囲とほ場内に 5～10m 間隔に排水溝を掘ります。排水溝は、ほ場外の排水路に繋がります。
- 本暗渠がある場合には、本暗渠と交差するように 2～3m 間隔で 30 cm 程度の深さに弾丸暗渠や心土破碎を施工します。

排水性を向上させるために

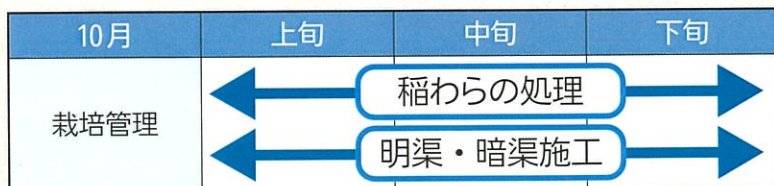
溝掘には溝掘機(トレンチャー)を使って確実に

溝を連結して、排水口に つなげる

条件不利地では、溝を多く設置

弾丸暗渠(サブソイラー)が有効

2年固定の畑地化で生産性向上



生産履歴を記載しましょう(カレンダーにメモして、生産履歴管理記録に転記しましょう)

実施年月日	作業内容	使用した資材名・数量(種子、肥料、農薬)	実施面積	特記事項

※カレンダーに記載されている農薬は登録内容が変更になることがありますので、最新の登録内容を確認の上、使用してください。基準を守り、特に飛散(ドリフト)に十分注意しましょう。

家畜ふん堆肥の施用

- 麦作付け前は、地力維持のための家畜ふん堆肥施用の適期です。
- 土壌の緩衝力を高め、pH が低下しにくくなり、保肥力も向上します。
- 資材や堆肥等を施用した後は、早めにすきこみましょう。
- 堆肥の施用量に応じて化成肥料の施用量を調整(減肥)しましょう。

家畜ふん堆肥施用の目安(9月～10月)

牛ふん堆肥の場合

日本麺用品種 1～2 t/10a

硬質小麦品種 2～3 t/10a

豚ふん堆肥の場合

0.5 t/10a (施肥基準から)

● 三重県産小麦の栽培マニュアル(平成 20 年 1 月) ● 農林水産省 都道府県施肥基準(ホームページ)

播種前の雑草防除(耕起前・播種前)

- 雑草の発生が多い場合、播種前に、茎葉処理除草剤を散布しましょう(ラウンドアップマックスロード、バスタ液剤など)。
- 播種後には土壌処理剤を散布しましょう。

【使用方法 例】

RAC コード ※	薬剤名	麦 種	使用時期	適用雑草名等	使用量(10aあたり)		使用回数
					薬剤量 (ml)	水量 (ℓ)	上段:本剤 下段:有効成分を含む農薬
H:9	ラウンドアップ マックスロード	麦類	耕起前又は播種前まで 播種後出芽前(雑草生育期) 収穫前日まで(雑草生育期) 圃場内の周縁部(収穫前日まで)	一年生雑草	200～500	少量散布 5～25 少量散布 5～25 通常散布 50～100	3回 3回(グリホサート)
H:10	バスタ液剤	小麦	播種前(雑草生育期)	一年生雑草	300～750	100～150	1回 4回(グリホサート、播種後は3回)
H:9 H:14	サンダーボルト007	小麦	耕起前(雑草生育期)	一年生雑草	400～600	100	2回 3回(グリホサート)
		麦類(小麦を除く)	耕起7日前まで(雑草生育期)	多年生雑草	500～1000		2回(ピラフルフェンエチル)
H:9	タッチダウンiQ	小麦(秋播)	耕起3日以前(雑草生育期)	多年生イネ科雑草	500～1000	25～100	1回(大麦 3回)
		小麦(秋播)・大麦	耕起前又は播種前(雑草生育期)	一年生雑草	250～500		3回(グリホサート)
H:9	草枯らし	小麦	耕起7日前まで(雑草生育期、 草丈 30cm 以下)	多年生雑草	500～1000	100	1回 3回(グリホサート)
		小麦	耕起前又は播種前まで(雑草 生育期)	一年生雑草・多年生イネ科雑草	250～500	50～100	3回(グリホサート)
		麦類(小麦を除く)	耕起7日前まで(雑草生育期)	一年生雑草	250～500	100	3回(グリホサート)
H:22	プリグロックスL	麦類	播種前又は播種後出芽前 雑草生育期:圃場内の周縁部	一年生雑草	600～1000	100～150	4回 4回(ジクワット) 4回(バラコート)

※作用機構が同じグループの農薬を連用すると、病害虫の抵抗性(薬剤耐性)が発達し、農薬の効果が低下する恐れがあります。RACコードを確認し、同じ作用機構を持つ農薬の連用は避けましょう。

適期・適正な播種！

種子消毒 雑草防除(播種後) 基肥の施用



種子消毒

種子消毒を必ず実施しましょう！ 0.5% 粉衣(乾燥種子重量) 【使用例】

薬剤名	麦種	なまぐさ黒穂病	裸黒穂病	条斑病	斑葉病	忌 避
ベンレートコート	麦類	○	○	○	○	—
キノンドー水和剤 40	小麦	○	×	×	○	—
キヒゲンR-2フロアブル	小麦	○	×	×	×	○

原液 20ml 塗沫(乾燥種子 1kg)

雑草防除(播種後)

【使用方法 例】

RAC コード ※	薬剤名	麦 種	使用時期	適用雑草名等	使用量(10aあたり)		使用回数
					薬剤量 (ml)	水量 (ℓ)	
H : 15	ボクサー	小麦(秋播)	播種後～麦2葉期(雑草発生前～発生始期)	一年生雑草	400～500	50～100	2回 2回(プロスルホカルフ)
		大麦(秋播)	麦2～4葉期(雑草発生前～発生始期)	一年生雑草	400～500	70～100	
H : 12 H : 15	リベレーター フロアブル	小麦・大麦(秋播)	播種後～麦3葉期(雑草発生前～イネ科雑草1葉期)	一年生雑草	60～80	100	1回 1回(ジフルフェニカン) 1回(フルフェナセット)
H : 3	トレファノサイド 乳剤	小麦 麦類(小麦を除く)	播種後出芽前～麦3葉期(雑草発生前～雑草発生始期) 生育期(雑草発生前)、但し、収穫45日前まで	一年生雑草(ソコクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	200～300	100	2回 2回(トリフルラリン)
H : 3	トレファノサイド 粒剤 2.5	麦類	播種後出芽前～麦3葉期(雑草発生前～雑草発生始期) 生育期雑草発生前、但し、収穫45日前まで	一年生雑草(ソコクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	4～5kg		2回 2回(トリフルラリン)
H : 15 H : 3 H : 5	クリアターン 細粒剤 F	小麦・大麦	播種直後(雑草発生前)	一年生雑草	4～5kg		1回 1回(ベンチオカーブ) 1回(ベンディメタリン) 1回(リニユロン)
H : 15 H : 3 H : 5	クリアターン乳剤	小麦・大麦	播種直後(雑草発生前)	一年生雑草	500～700	70～100	1回 1回(ベンチオカーブ) 1回(ベンディメタリン) 1回(リニユロン)

※作用機が同じグループの農薬を連用すると、病害虫の抵抗性(薬剤耐性)が発達し、農薬の効果が低下する恐れがあります。RACコードを確認し、同じ作用機を持つ農薬の連用は避けましょう。

実施年月日	作業内容	使用した資材名・数量(種子、肥料、農薬)	実施面積	特記事項

※カレンダーに記載されている農薬は登録内容が変更になることがありますので、最新の登録内容を確認の上、使用してください。基準を守り、特に飛散(ドリフト)に十分注意しましょう。

播種

- 播種時期：県内平坦部 11月初旬～ 伊賀地域 10月末～(11月末までには完了しましょう)
- 播種量：7-9kg/10a(ドリル播き、条間 25cm) 8-12kg/10a(バラ播き)

11月	上旬	中旬	下旬
栽培管理	播種・施肥・鎮圧		
	雑草防除(除草剤散布)・排水溝施工		
麦の生育	出芽・幼苗期		

適切な肥料の施用で、高収量・品質を目指しましょう

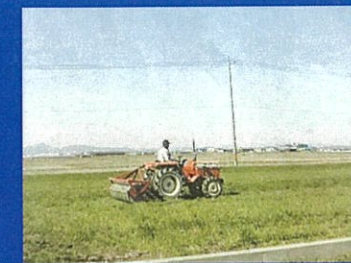
■ 収量と品質を確保するため、施肥不足にならないようにしましょう。

- 基肥を十分施用して初期の生育量(分げつ)を確保しましょう。
- 追肥を積極的に施用して、収量、品質を確保しましょう。

麦種	品種名	施用時期	施肥設計			分施肥体系		肥効調節型肥料体系
			窒素 (kg/10a)	リン酸 (kg/10a)	カリ (kg/10a)	施肥例(1)(10a当り)	施肥例(2)(10a当り)	施肥例(3)(10a当り)
小	あやひかり さとのそら	基肥	11月上中旬(播種前・播種時)	7	7	7	化成肥料(14-14-14) 50kg	麦エムコート 35(35-4-4)
		穂肥	1回目 2月上中旬(幼穂形成期)	3	0	3	化成肥料(17-0-17 または 20-0-10) 20 kg または 尿素(46-0-0) 7kg	35kg または 麦元気基肥一発 (30-5-5) 40～45kg
	ニシノカオリ タマイズミR	基肥	11月上中旬(播種前・播種時)	7	7	7	化成肥料(14-14-14) 50kg	小麦専科 32 (32-5-5) 50kg
		穂肥	1回目 2月上中旬(幼穂形成期)	3	0	3	化成肥料(17-0-17 または 20-0-10) 20 kg または 尿素(46-0-0) 7kg	
大	ファイバースノウ	実肥	4月中下旬(開花期)	4	0	0	尿素(46-0-0) 9kg	
		基肥	11月上中旬(播種前・播種時)	6-7	7-8	7	化成肥料(14-14-14) 50kg	麦エムコート 35(35-4-4)
		穂肥	1回目 2月中下旬(幼穂形成期)	2-3	0	2-3	化成肥料(14-14-14) 20kg	40kg または 麦元気基肥一発 (30-5-5) 40～50kg

- 1) いずれの品種・施肥体系でも播種年内に降雨が多い場合はつなぎ肥を3～4葉期に窒素成分で2kg/10a程度施用
- 2) 肥効調節型肥料体系を利用する場合：○リン酸・カリの施用量が分施肥体系より少ないので土づくりにつとめる。
○生育状況に応じて追肥が必要な場合がある。

生産履歴を記帳しましょう(カレンダーにメモして、生産履歴管理記録に転記しましょう)



麦踏み(12月)

■ 3葉期から節間伸長開始期までに実施します。

- 12月～2月、15日～20日間隔、2～3回実施
- 土壌が良く乾いたときに行います。
- 土壌が湿っている時や、縞萎縮病多発地帯では湿害や病気を助長するため、控えます。
- 早播きや暖冬で生育が進みすぎた場合には、凍霜害を防止するために、実施します。

生育初期の麦踏みについて

- ほ場の乾燥を防止し、初期生育を早めます。
- 下位節から分げつを促し、茎数を増加させます。
- 有効茎(将来の穂)を早く揃えます。

排水対策

■ 播種前に明渠を施工できなかった場合には、12月中に実施しましょう。

雑草防除(生育期)

■ 生育期間中には、発生草種に応じた茎葉処理剤を散布します。

■ 条間を広くとったり、排水溝周辺を広くあけたりしているときは、雑草の繁茂に注意しましょう。【使用方法 例】

RAC コード ※	薬剤名	麦 種	使用時期	適用雑草名等	使用量(10aあたり)		使用回数 上段: 本剤 下段: 有効成分を含む農薬
					薬剤量 (ml)	水量 (ℓ)	
H: 6	バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	小麦	生育期(収穫45日前まで)	一年生雑草(イネ科を除く)	100～200	70～100	1回
		麦類(小麦を除く)	生育期(収穫90日前まで)				1回(ベンタゾン)
H: 2	ハーモニー DF	小麦	節間伸長開始期～穂ばらみ期 但し、収穫45日前まで	一年生広葉雑草	3～10g	50～100	1回
			播種後～節間伸長前	スズメノテッポウ: 一年生広葉雑草	5～10g		1回(チフェンスルフロンメチル)
		大麦	麦1葉期～節間伸長前	カズノコグサ	10g		
			播種後～節間伸長前	スズメノテッポウ: 一年生広葉雑草	5～10g		
			麦1葉期～節間伸長前	カズノコグサ	10g		

※作用機構が同じグループの農薬を連用すると、病害虫の抵抗性(薬剤耐性)が発達し、農薬の効果が低下する恐れがあります。RACコードを確認し、同じ作用機構を持つ農薬の連用は避けましょう。

12月	上旬	中旬	下旬
栽培管理		麦踏み	
	(早めに対応を)	雑草防除	(多発に対応)
麦の生育		分げつ開始	

チゼルプラウによる深耕体系の特長

- 乾燥促進
粗く起こすことで地中の隙間や土壌の表面積が大きくなるので、雨が降った後の乾燥が比較的早い。
- 土壌の物理性改善
ロータリー耕よりも深耕が可能で根域を広くできる。
チゼル爪での深耕となるため、土壌の反転性能が小さく、下層の養分が乏しい土壌を作土層にあげることが少ない。
- 作業の高能率化が可能
チゼル爪で耕起するためボトムプラウよりも作業幅が広く作業能率が高い。
(但し、雑草防除(カラスムギ)では、ボトムプラウが有効です)

縦軸駆動ハローでの碎土作業の特長

- 碎土・鎮圧作業(同時)
チゼル深耕後に乾燥して固まった土塊を砕き、整地するのに適する。
後方のスパイラルローラで地面を締固めるので、播種時に作業機の沈み込みが少ない。
- 優れた作業能率と作業性能
ロータリー耕よりも作業速度が速く、作業能率が高い。
チゼル深耕後の大きな土塊を、縦方向に回転する爪が高速で碎土しながら整地するので、下層の稲株を引き上げてくることが少ない。

技術メモ
(三重県農業研究所)

生産履歴を記帳しましょう(カレンダーにメモして、生産履歴管理記録に転記しましょう)

実施年月日	作業内容	使用した資材名・数量(種子、肥料、農薬)	実施面積	特記事項

※カレンダーに記載されている農薬は登録内容が変更になることがありますので、最新の登録内容を確認の上、使用してください。基準を守り、特に飛散(ドリフト)に十分注意しましょう。

経営所得安定対策等の概要

令和5年度経営所得安定対策の概要(農林水産省)を引用しました。詳細については、同パンフレット等を参照してください。

畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

【水田・畑地共通】

(所要額:1,984億円)

【認定農業者、集落営農、認定新規就農者が対象(いずれも規模要件はありません。)]

数量払 生産量と品質に応じて交付

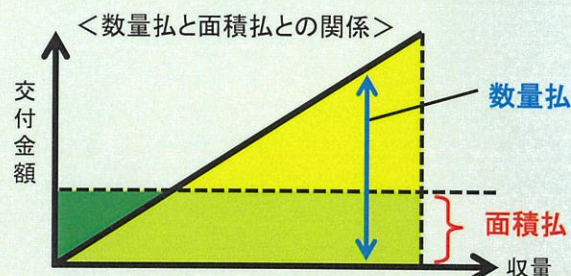
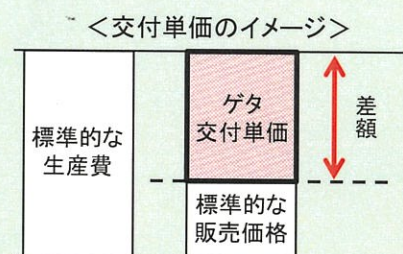
【令和5年産～7年産の平均交付単価】※ 交付単価は品質区分に応じて設定

対象作物	平均交付単価	対象作物	平均交付単価	対象作物	平均交付単価
小麦 (円/60kg)	課税事業者向け 5,930 免税事業者向け 6,340	はだか麦 (円/60kg)	課税事業者向け 8,630 免税事業者向け 9,160	でん粉原料用 ばれいしょ (円/t)	課税事業者向け 14,280 免税事業者向け 15,180
二条大麦 (円/50kg)	課税事業者向け 5,810 免税事業者向け 6,160	大豆 (円/60kg)	課税事業者向け 9,430 免税事業者向け 9,840	そば (円/45kg)	課税事業者向け 16,720 免税事業者向け 17,550
六条大麦 (円/50kg)	課税事業者向け 4,850 免税事業者向け 5,150	てん菜 (円/t)	課税事業者向け 5,070 免税事業者向け 5,290	なたね (円/60kg)	課税事業者向け 7,710 免税事業者向け 8,130

注1:てん菜の基準糖度は、16.6度 注2:でん粉原料用ばれいしょの基準でん粉含有率は、19.6%

面積払 当年産の作付面積に応じて、数量払の先払いとして交付

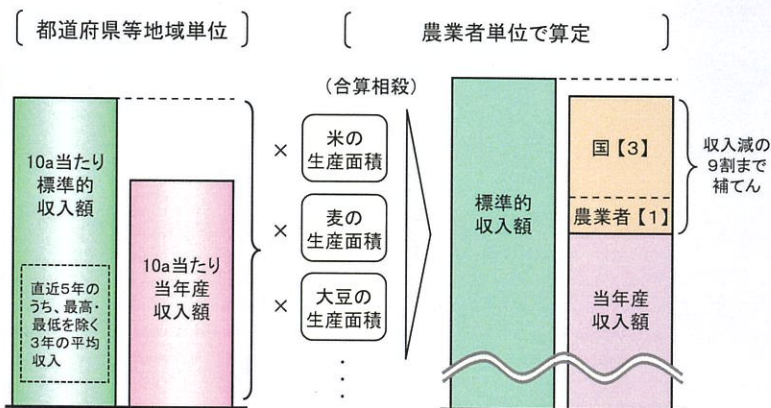
20,000円/10a(そばは、13,000円/10a)



米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）

(所要額:528億円)

【認定農業者、集落営農、認定新規就農者が対象(いずれも規模要件はありません。)]



米、麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょの当年産収入額の合計が標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を補てん。(農業者と国が1対3の割合で拠出)積立金は掛け捨てではありません。

水田活用の直接支払交付金及び関連対策

水田活用の直接支払交付金

(令和5年度予算概算決定額:2,918億円)

戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	3.5万円/10a※1
WCS用稲	8.0万円/10a
加工用米	2.0万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、5.5万円～10.5万円/10a※2

※1 多年生牧草について、当年産において播種を行わず収穫のみを行う年は1万円/10aで支援

※2 飼料用米の一般品種について、令和5年度については従来と同額を支援。令和6年度から標準単価を段階的に引き下げ、令和8年度において標準単価6.5万円/10a(5.5～7.5万円/10a)とする。

産地交付金

地域の作物振興の設計図となる「水田収益力強化ビジョン」に基づく、地域の特色を活かした魅力的な産地づくりに向けた取組を支援します。

都道府県連携型助成

都道府県が転換拡大に取り組む生産者を独自に支援する場合に、国が追加的に支援します。

畑地化促進助成

(令和5年度予算概算決定額:22億円)
(令和4年度第2次補正予算「畑地化促進事業」と併せて実施)

畑地化促進事業

(令和4年度第2次補正予算額:250億円)

水田の畑地化や畑地化後の畑作物の定着までの一定期間の支援のほか、農地利用の団地化等に向けた関係者間の調整や種子の確保、土地改良区の地区除外決着金等を支援します。

畑作物産地形成促進事業、コメ新市場開拓等促進事業(旧水田リノベーション事業)

畑作物産地形成促進事業:(令和4年度第2次補正予算額:300億円)
コメ新市場開拓等促進事業:(令和5年度予算概算決定額:110億円)

実需者との結び付きの下で、対象作物の低コスト生産等に取り組む生産者を支援します。

経営所得安定対策等推進事業等

(令和5年度予算概算決定額:72億円)

eMAFF(農林水産省共通申請サービス)のシステム運用など経営所得安定対策等の交付金の手続等の事務に必要な経費を措置するとともに、対策の推進、水田収益力強化ビジョンの作成を行う都道府県、作付面積の現地確認等を行う市町村等に対し必要な経費を助成します。

都道府県への助成に当たっては、対策加入者数・取組面積などにも配慮し、また、都道府県は上記事項に基づき、市町村等に適切に配分します。

